

市長が行く

No. 29

茂原市長 田中豊彦



大震災への対応について

さる3月11日、千年に一度といわれる規模の東日本大震災が発生しました。この大震災により尊い命を落とされた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われた多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。

原市では、すぐに支援の検討に入りましたが、まず旭市からは、ボランティアの支援要請がありました。そこで、3月19日～25日の間に集まっていたいただいた約180名のボランティアの方々に、市バス2台を使って旭市に行き、活動していただきました。

くされている方々の受け入れを始めております。長期滞在を目的に、企業や一般の方からお預かりした家屋、市営住宅38棟のうち11棟（4月21日現在）に入居希望があり随時入居されているところです。

茂原市は、直ちに地震対策本部を立ち上げ、市内全域の被害状況を把握するとともに、具体的な対策をとることにしましたが、幸いなことに、茂原市内では、一部企業を除き、家屋の倒壊や人的被害もなく、市長としてはひとまず安堵いたしました。計画停電やJ・R外房線の運転見合わせ等により、一時はご不自由をおかけしたことと思いますが、市民の皆様の冷静な対応とご協力に本当に感謝申し上げます。深刻な福島第一原発の事故による放射能汚染への不安もありました。水質検査と食物検査を行っておりますが、今のところ（4月21日現在）人体に悪影響を与えるような数値は検知されておりません。

そして、「全国地方拠点都市地域」で交流のありました岩手県釜石市の被害状況を知り、支援物資を送ることを決め、第一便7トンほどを3月19日に、第二便9トンほどを4月4日に、水、毛布、食料品、生活関連物資などを満載にし、配送いたしました。釜石市の野田市長からは、茂原市と茂原市民の皆様から心からの感謝の電話をいただきました。市民の皆様や、市内企業からいただいた貴重な救援物資につきましては、3月31日に陸上自衛隊習志野駐屯地に輸送し、今後各被災地へと送り届けられることになっております。義援金は赤十字および共同募金会に約2000万円を送金しております。

今回の震災での被害は大きく、また原発事故も重なり、復興まではまだまだ長い期間での協力が必要となります。ただ、茂原市のように財政が厳しい自治体では、支援にも限界があると思っています。それでも茂原市として出来る限りの支援をしていくつもりです。一方で今求められているのは、大きな意味で政治がひとつになり、国難を乗り越えることです。民主党だとか自民党だとか言っている場合ではなく、震災に遭われた方々を一日も早く安心させること、そして原発事故を終結させることに党派を超えて取り組んでもらいたいと思っております。今回は報告書のようにりましたが、今後とも市民の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

しかし、県内では、旭市や浦安市等で甚大な被害が出ました。茂一原発事故により、避難を余儀な